

気候変動適応策研究会

The Society of Climate Change Adaptation

代表：半田あづみ

副代表：村上太一

研究会概要

本研究会のテーマは、気候変動の「適応策」について多角的に検討するものである。気候変動に対し、CO₂排出量を減らすといった対処を緩和策、気候変動に由来する被害を予防・低減するといった対処を適応策と呼ぶが、緩和策の研究は豊富である一方、適応策に関する研究は十分に行われているとは言い難い。そこで本研究会は、適応策の根本的な部分—その存在価値、歴史、射程—を問い、その理論的研究を進めている。

研究会目的

本研究会の目的は、適応策とはなにか、なぜ適応策に取り組まなければならないのかを検討することである。現在、免れえない気候変動に対して国際レベル、各国の協力が求められている。しかし、その主体や対策については十分に取り組まれてきたとは言い難い。本研究会では、こうした現状に対して適応策への取り組みと対応について理論的側面からアプローチすることで、適応策の必要性や展望を明らかにしていく。また、この研究成果を社会に還元するために、論文執筆および書籍化を目標とする。

運営方法

各メンバーの関心に基づいて勉強会を開催し、議論を行って見識を深めた。それに基づいて、各メンバーの考えを共有したうえで、書籍執筆に向けて出版会社とオンラインで打ち合わせを行い、書籍全体の構成、文字数の配分、執筆内容等を調整し、出版準備に注力した。開催の形式は、図書館等での対面形式と、オンライン形式を併用した。通常の定例会に加えて自由会を新設し、毎月2回、直接のおよび間接的に話し合う機会を確保し、平時からの情報共有に努めた。

活動内容

春学期は新メンバーの加入に伴い口頭発表・質疑応答・議論を行った。また、研究会活動の成果として出版準備中の書籍の出版方針・計画について複数回の会合を重ねた。出版方針に沿って、各メンバーは研究目的と研究方法を検討した。

秋学期は出版準備と書籍執筆を計画的に遂行するために、全メンバーが参加する定例の研究会と、有志のメンバーが研究について意見交換を行うことができる自由会をそれぞれ月例会として開催した。これに並行して書籍の担当章における執筆内容を共有するための要約を各自作成し、共同で検討を行った。

成果・展望

本年度は、研究会を発足して2年目になる。前年度に続き、目標である書籍完成に向けた準備期間となった。特に、書籍や執筆形式の議論を繰り返したことで、書籍体裁面の調整に関する成果が得られた。加えて、執筆者としての新メンバーの増員や入会希望者と面会する機会があり、本研究会の代謝が上がった年であったといえる。次年度も研究会活動を継続し、書籍完成に向け励む。書籍執筆に関する活動が長期戦となっているため、研究会メンバーの士気を保つために活動方法を工夫していく。

研究会会員：半田あづみ、村上太一、堀祐輔
冠野つぐみ、北和樹、川島嵩史